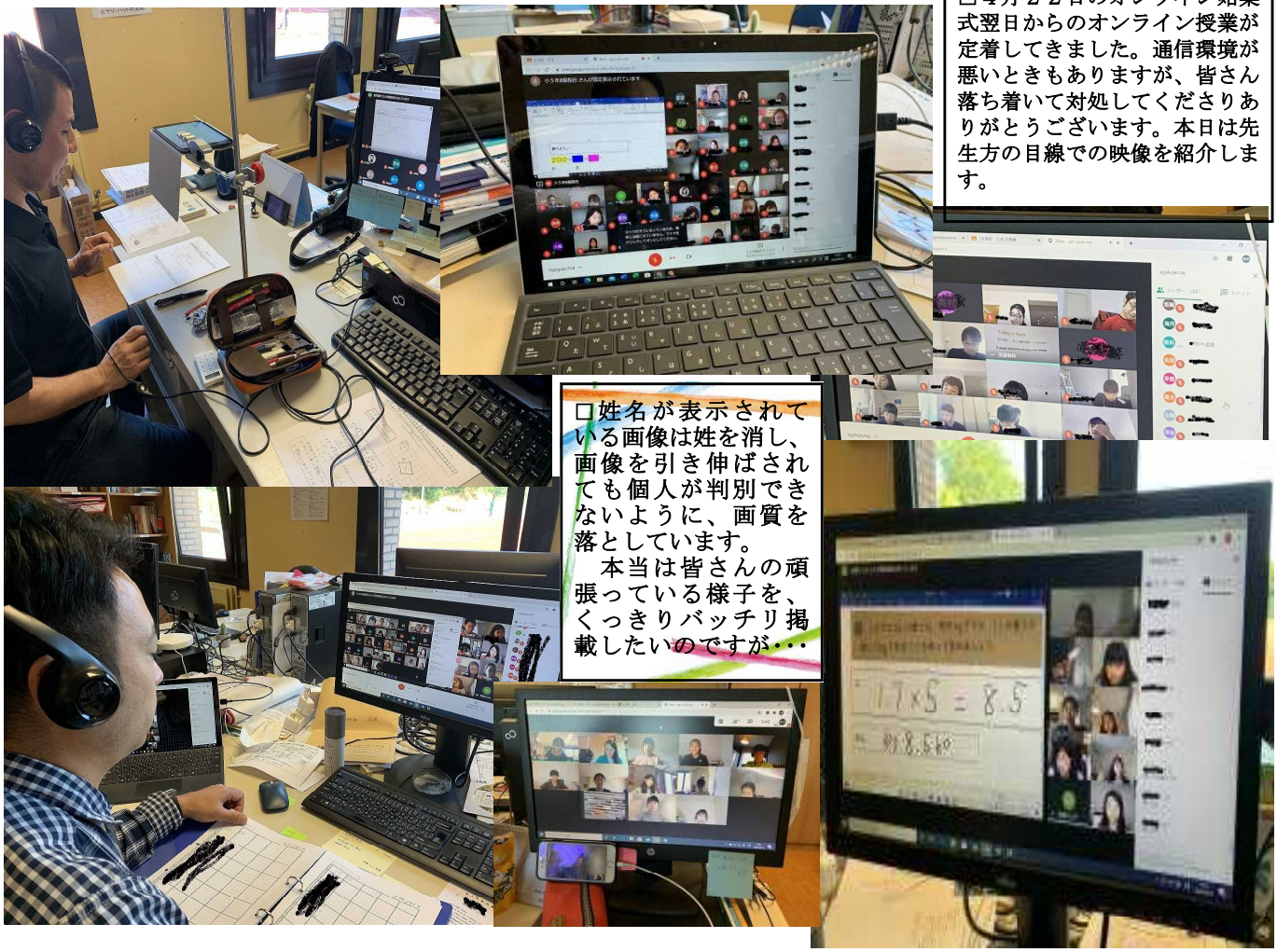
令和２年　第６号

□「森をこえ　泉をこえて　鐘の音が　響く　石だたみの彼方　高き学舎　若い力の　伸びゆく園　おおブラッセル日本人学校」『支え合い　励まし合い　志高く』　～タイトル：黎明の校舎～

５月１８日（月）から始まった部分登校も１ヶ月を超えました。最初は子供たちの登校する元気な姿を見ることができほっとしました。今はまだ全校児童生徒の登校ではありませんが、運動場で子供たちの歓声が聞こえたり、リコーダーの音が響くのを聞くだけで学校が生命の息吹を得たような気がします。児童生徒のいない学校に響くカリオンは、本当にもの悲しい音でしたから。

□オンライン授業のこちら側

□４月２２日のオンライン始業式翌日からのオンライン授業が定着してきました。通信環境が悪いときもありますが、皆さん落ち着いて対処してくださりありがとうございます。本日は先生方の目線での映像を紹介します。



□姓名が表示されている画像は姓を消し、画像を引き伸ばされても個人が判別できないように、画質を落としています。
　本当は皆さんの頑張っている様子を、くっきりバッチリ掲載したいのですが・・・

校長の独り言　『愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ』

ドイツ統一(1871)を果たした初代宰相のビスマルクは、「愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ」と語りました。教育に携わるものとしては、経験に学ぶというのもすばらしいことです。

しかしビスマルクは、賢者はそもそも過去の他人の失敗から学び失敗を未然に防ぐ。同じ失敗をしないようにするという。人を導く責務のあるリーダーならなおさら、自らの失態が多くの人間に不利益をもたらすことが考えられます。したがって自らの経験だけに信をおき、失敗したらそこに学びますというのでは無責任このうえないというわけです。

また、「歴史」とは人類全体の経験です。愚者は、「自分自身の経験から判断しよう

とする」が、賢者は歴史に学び自分の主観を超えた判断基準と視野を持つということです。

ただし真の愚者は自らの失敗からも学ぶことはできません。自らの失敗を他者の所為にするからです。

自らの失敗を自分のこととして受け止め、恥辱に耐え、同じ過ちをくり返さない努力をする者を私は愚者とは言いません。むしろ勇気ある者であると言えます。しかし、同じ過ちをくり返さない努力をする者ならば、歴史に学ぶ姿勢はやはり必然だと思います。前置きが長くなりました。拙者、社会科の教員なもので。

この絵は徳川家康(1542-1616)を描いた絵のひとつで、「しかみ像」といいます。見慣れた家康像とは違うといった印象をお持ちではないでしょうか。家康は武田信玄との「三方々原の戦い」(1572年)において、自らの軽挙妄動により命の危険を招いたことがあります。家康がまだ若く、織田信長(1534-1582)と軍事同盟を結んでいたころ、武力が戦国一といわれた武田信玄(1521-1573)と争い、散々に打ち負かされ、挙句、うんちをたれながら敗走した時のものです。

逃げ帰って後、馬具にうんちがついているのを家臣に見られて、重臣の大久保忠世に大爆笑されてしまいます。勇ましく出ていったはいいものの、死にそうになって帰ってきて、びびりまくってうんちまで漏らしてしまった。家臣にも笑われてしまい、家康の人生のなかでも、まさに空前絶後の糞だり蹴ったり。普通ならもうこれだけでリーダーとして立ち直れない挫折であったろうと思われます。逆上し、憤死するほどの屈辱。しかしそこは天下の家康です。転んでもただでは起きません。

この時の経験、自らの愚かさ、みじめさ、敗戦の恐怖と恥辱に打ちひしがれた自分の姿を忘れないよう、お付の絵師に描かせたのがこの「しかみ像」です。家康は以後この「しかみ像」をいつでも携行していたそうです。

また、豊臣秀吉(1536-1598)は家康を「江戸」という遠方に転封しました。当時の江戸は低湿地帯で不毛な土地。隅田川、綾瀬川、旧利根川が暴れ放題のやっかいな土地でした。家康は「坂東太郎」と言われていた利根川を千葉の方へ流れるように大土木工事をおこない、その後何百年もかけて、世界に誇る江戸という都市の基礎をつくりました。江戸転封は、心血を注いで三河（愛知県東部）を発展させていた家康にとって、この上ない苦痛であったろうと思います。

秀吉は家康を不毛の地へ追いやるだけでなく、福島正則(1561-1624)など腕力の強い大名たちを周辺に配置するなどして家康を牽制しました。徹底して家康に嫌がらせをし、家康が業を煮やして反撃でもしたら滅ぼしてやるという算段だったと思われます。

家康は耐えました。手元には「しかみ像」がありました。そして、「関ヶ原の合戦(1600年)」のときには、福島正則らを手なずけ、自分の味方にしています。逆境を自分に有利なように変革する能力に長けていました。「しかみ像」をみて、傲ることなく、人間の卑小さをかみしめ、今何をなすことが最善か考え、その時にできることを具体的に一歩一歩行ってきた家康が最後に天下人になるわけです。

日本人は転んだ（失敗した）ことのない人をエリートと誤って認識している節があります。歴史に学ぶなら、真のエリートは転んでも転んでも立ち上がり志を果たす者だということが家康のエピソードからわかります。高橋是清などその典型だと思います。

賢者は歴史に学ぶとビスマルクはいいますが、私は歴史を学ぶのはただ単純に楽しいことだとも思います。歴史が失われた国もたくさんあります。日本には誇るべき歴史がたくさんある希有な国です。捏造にまみれた歴史も。本当はどうだったのか。事実を知りたい。三千世界に興味は尽きませんね。 ※今回は予告通り家康の第２弾でした。面白エピソードを入れねばといつも思っているのですが･･･すみません。私、社会科教師で蘊蓄(うんちく)が好きなものですから。）の場所間違えました。

事務室より(引落に関するお願い)

1）2学期引落日　　：**2020年8月17日(月)** 2学期始業日

2）1学期授業料　　：2,025 EUR (一人405EUR x 5ヶ月)

協賛金対象の方　：　　＋100 EUR　　(一世帯20EUR x 5ヶ月)

- 事前に引落口座の残高を、引落後は金額をご確認ください。
- 支払証明書(領収書)が必要な方はoffice@japanese-school-brussels.beまでご連絡いただくか、事務室保管の証明書依頼書の提出をお願いいたします。

3）退学届の締め切りは最終登校日の**2週間前**です。転出日が決まりましたら担任から書類を受け取り提出して下さい。

4）住所変更や引落銀行の変更希望などがありましたら、事務室までご連絡ください。
また日本人会に新規加入あるいは退会される場合もご一報ください。